

かわまちづくりの維持管理に関する「デザイン・サーキュレーション」に係る一考察
～天竜川下流マスコット・キャラクター「りゅっぴい」による展開事例～

A Study on "Design Circulation" on The Maintenance and Management of Kawa Town
Development

～Case study of development by the mascot character "Ryuppi" downstream of the Tenryu
River～

尾藤文人¹⁾

一般社団法人 ClearWaterProject²⁾

インフラの維持管理には膨大な費用や人材が必要である。これを解決するには、少子高齢化を迎える日本にとって、公費による所得の再分配機能は衰える一方で困難な状況である。そこで、例えば、野球チームやフットボールチームのエンブレムのようなシンボリックなデザインによって、「サーキュレーションする」、すなわち「広義な維持管理などをする」という意味である。例えば、「天竜川」と言っても一般的な「川」をイメージ出来ても、特定のイメージを持つ事が出来ないだろう。これをシンボルとしてマスコット・キャラクターを設定し、かわまちづくりに活かしたらどうだろうか。

Infrastructure maintenance and management requires a huge amount of money and human resources. In order to solve this problem, the redistribution function of income by public funds is difficult for Japan, which is facing a declining birthrate and aging population, while declining. Therefore, for example, symbolic design, such as the emblem of a baseball team or football team, means "circulation", that is, "to do a broad maintenance". For example, even if you say "Tenryu River" or you can imagine a general "river", you will not be able to have a specific image. Why don't you set the mascot character as a symbol and make use of it in Kawa town planning?

Keyword: インフラの維持管理、デザイン・サーキュレーション、かわまちづくり

Infrastructure maintenance and management, Design Circulation, Kawa town planning

1. はじめに

今後のインフラの維持管理に関しては課題が山積している。尾藤ら¹⁾はインフラを「G 型インフラ」と「L 型インフラ」と位置付けた。私事になるが、私は国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所長在任中(平成 28 年 4 月～平成 30 年 7 月)に驚いた事があった。所管する天竜

川下流について、市民に尋ねたところ、ほとんどが「関心が無い」、「意識した事が無い」という回答であった。これはすなわち、「地元愛」であるとか、「郷土愛」というものが無くなっているのではないかと、という危機感を覚えたものであった。私が英国へ行った際に、おじいちゃんやおばあちゃんが地元のフットボールチームを愛

1) 正会員、前国土交通省中部地方整備局河川部河川調査官

2) 非正会員

してやまない姿を思い出した。壁にはチームのエンブレムが誇らしげに飾っており、親子3代にわたってのサポーターだ、と話してくれた。これは、とても大きなインパクトがあり、インフラも地元で愛される野球チームやフットボールチームのような存在にならなければ、廃業の憂き目に遭うだろう、という事が容易に想像できた。

2. 「デザイン・サーキュレーション」の仕組みづくり

ここで、「デザイン・サーキュレーション」の定義を述べたい。インフラの維持管理には膨大な費用や人材が必要である。これを解決するには、少子高齢化を迎える日本にとって、公費による所得の再分配機能は衰える一方で困難な状況である。そこで、例えば、野球チームやフットボールチームのエンブレムのようなシンボリックなデザインによって、「サーキュレーションする」、すなわち「広義な維持管理などをする」という意味である。例えば、「天竜川」と言っても一般的な「川」をイメージ出来ても、特定なイメージを持つ事が出来ないだろう。これをシンボルとしてマスコット・キャラクターを設定し、かわまちづくりに活かしたらたらどうだろうか。次節以降に説明したい。

3. 「デザイン・サーキュレーション」の一例

「天竜川」と言ってもイメージ出来ない旨を前節で述べた。熊本県のマスコット・キャラクター「くまモン」はあまりにも有名だが、同様なシンボル・キャラクターを設定してはどうだろうか。プロセスについてはローコストかつ恣意的にならない事を前提に、公募し、全国から100作品以上の応募があった。副次的効果として、学校での学習課題として応募してくれたケースが多々あった。「天竜川下流ブランディング委員会」で10作品に絞り、これを総選挙して、投票数の一番多かった作品「りゅっぴい」（作者は浜松工業高校三年生の金原美麗さん）に決定したのである（直轄河川109水系では全国初の試み）。



図1

そのプロセスは地元メディアに度々取り上げられ、「天竜川下流」＝「りゅっぴい」への階段を登り始めたのである。「りゅっぴい」という石が池に投げられて波紋が広がるように、次の展開がなされた。LINE スタンプの販売である。地元の大学である静岡文化芸術大学のボランティア・サークルが40数種類のデザインを作成し、天竜川下流の河川協力団体である「NPO 法人水辺の里まちづくりの会」が販売し、収益は同NPO法人の活動資金になるという「(学・学・NPOによる) サーキュレーション・システム」が出来上がったのである。ボランティアによるところがあるが、コストは0円である。0から1が生まれた瞬間であった。因みに直轄河川（全国109水系）において、「シンボル・キャラクター」の設定も「デザイン・サーキュレーション」も初の試みである。

更なる展開として、公益財団法人静岡県西部しんきん地域振興財団において、「天竜川応援基金（SDGs 基金）」も創設された。



図2

天竜川とのつながり（川、水、森、海など）の形成」に寄与し SDGs の 17 の目標を達成するための企業・団体等による活動を支援する基金である（当初は「天竜川下流りゅっぴい応援基金（案）」であったのだが）。

4. 終わりに

「デザイン・サーキュレーション」については、緒についたばかりである。ただ、シンボリックな「デザイン」は発火点である事は間違いない。こんな経験があった。天竜川下流域にある中ノ町の「子ども食堂」へ行った時のことである。私は、帽子に「りゅっぴい」の缶バッジをつけて（予備を複数持参して）居たのだが、子供たちにあつという間に取られてしまった。もっとたくさん持って行けばよかったと後悔したものである。シンボリックなデザインが「地元愛」や「郷土愛」を生み、発火点となって、クラウドファンディング「カワサポ」による NPO 法人活動資金の調達（これも天竜川下流が全国に先駆けて実施）



図 3

や LINE スタンプの販売、そして「天竜川応援基金（SDGs）」の創設といったインフラの維持管理の一助となる「サーキュレーション・システム」が進水しつつある。超少子高齢化社会、with コロナ社会を迎える日本にとって、金も人も潤沢では無い。しかしながら、英国で出逢ったおじいちゃんやおばあちゃんのように、誇れる我が国へ導く仕組みをご紹介できたのでは無いかと、自負している。

【参考文献】

- 1) 尾藤他「社会資本の維持管理・更新のための主体間関係に関する調査研究(中間報告)」国土交通省国土交通政策研究所 2015 年 3 月
- 2) 尾藤「かわまちづくりリレーレポート 水辺とつながる暮らしを楽しむ 天竜川におけ

る既存ストックを活かした地域運営組織の持続可能な取組への挑戦：新たな資金調達方法「クラウドファンディング」を通じた地方創生の試み」雑誌河川（日本河川協会）2016 年 11 月号

- 3) 尾藤「持続可能な地域創りをサポートする資金調達手法に関する考察 ～新たな地域応援ファンド「天竜川応援基金(SDGs 基金)」の創設～ 都市計画学会・都市計画報告集 VOL. 19(2020 年度)
- 4) 公益財団法人静岡県西部しんきん地域振興財 団 <https://hamamatsu-iwata.jp/about/community/zaidan/zaidan.Html>
- 5) 流域を支えるクラウドファンディング「カワサポ」 <https://www.kawa-supporters.net/>